

第6回

三原ふるさと 子ども博士講座



平成29年10月9日（月／祝）に中央公民館で行われた「第6回三原ふるさと子ども博士講座」今年も講師として、絵本作家の **永井 郁子** 先生にお越しいただきました。

永井先生の指導のもと、三原の昔話『はちがみね』を13の場面に分け、それぞれのシーンにあった絵を考えて実際に絵を描くという本格的な絵本作りを体験しました。



永井 郁子 ながい いくこ

本郷町出身。

「わかったさんのおかしシリーズ」
「かいぞくポケット」など、多くの
絵本イラストを手がける。

2009年には三原ふるさと大使と
なり、三原の子ども達のために
精力的に活動を行っている。

『はちがみね』

むかしむかし、まんけいというお坊さんが、木原の山の上におどうをつくりました。
おどうができあがった日、じごくのえんま大王から、てつでできた「はち」をもらいました。
このはちにはふしぎなちからがあり、おどうの米がなくなりそうになると、ひとりで海へ
とんでいき、海をとるふねからお米をもらってきます。
そんなある日、えちごのはたという人がふねで前の海をとりがかった時に、そらとぶはちを
みてこわくなり、はちのなかにひりょうを投げ入れてしまいました。
すると、海はあれ、はたののるふねはどうとうしずんでしまいました、
はたは自分のしたことをふかくはんせいし、まんけいおしょうのところに弟子入りしました。
まんけいおしょうが住む山は、「はちがみね」とよばれるようになりました。

講座のようす



永井先生のごあいさつ。
永井先生の絵本を知っている人いるかな!?



参考イラストをもとに、絵のイメージを
ふくらませていきます。



分からないところがあったら、永井先生が
親切に教えてくれます。



書き終わったら一人ずつ発表です。
素敵な絵本が3つ、出来上がりました。



最後はみんなで記念撮影。
永井先生、本当にありがとうございました！